大学改革トラック所感

坂下 善彦
湘南工科大学工学部、CAUA運営委員

2009年の合同研究分科会の総合テーマは「ITがあるから、大学は変わる！」であり、「大学改革トラック」はこの総合テーマについて考え、討議する中心会場となりました。

まず、東京大学大学院の山本泰先生から「学生による授業評価と今後のビジョン」と題した特別講演をいただきました。東京大学教養学部では各学期1200科目もの授業を運営していて、ほぼ全ての科目で学生による授業評価が行なわれています。しかも97%ものアンケート回収率を上げておられます。更には、授業評価の結果がFDに活かされる仕組みが出来上がっていること、学生の満足度向上に活かされる仕組みがしっかり出来上がっていること、そしてそれらが着実に運用されていることに感銘を受けました。フロアからの質問も多く、大変有意義で考えるところの多いご講演でした。

2番目は、佐賀大学の只木進一先生から「ITは大学運営の効率化に寄与しているか？」と題した講演をいただきました。まず、現代における大学は教育、研究、組織業務の全ての分野において情報システムが無ければ立ち行かない状況になっていると指摘されます。更に、そうした状況にも関わらず、組織的な連携がうまく機能せず、高コストや非効率をもたらしていると指摘されます。このようなことは誰もがぼんやりと気付いていながら、正面から取り上げられることのない問題でした。只木先生は、佐賀大学で組織的連携と技術的連携の双方から取り組んでおられ、勇気をもって問題点を明確にされ、その解決を図っておられます。こうした只木先生の取り組みに敬意を表したいと思います。

3番目は、武蔵大学の小野成志先生から「管理者不在のネットワーク構築ビジョン」のご講演いただきました。小野先生は従来から大学情報システムのガバナンスに興味を持たれて研究をされておられますが、その集大成ともいえる内容でした。この課題は大学改革を論ずる際の重要な項目であり、「当たり前品質」の運用管理から開放された情報センターは、「大学のイノベーション」に一番近い位置にいるという言葉は、情報センターに

係わる教職員にとって大変勇気付けられるものでした。

最後に、日本大学の吉野英治先生から「新しい時代の始まり！～クラウドコンピュータ時代における日本大学の情報化ビジョン」の講演をいただきました。日本大学におけるGoogle Appsの導入が単なる無料サービス導入ではなく、クラウド時代の大学ビジョンを元に行なわれていることや、Google Apps導入を大学改革の道具として利用するなど、とてもインパクトの強いお話を聞くことができました。

以上4件の講演は、在るべき大学像を実現するために情報技術（IT）が必要不可欠なものとして活用されていることを証明する内容でした。その一方で、我々はこの困難な状況に在る大学を希望する大学へと前進させる有効な手段となる情報技術の導入と活用の役割を担っているわけで、その責務の重さを改めて感じているところです。